



半世紀ぶりに東京木工場を全面建替え

～木の文化・技術・魅力の発信拠点が2025年秋に完成～

清水建設株式会社

2022年05月19日

清水建設（株）＜社長 井上和幸＞は、創業時より連綿と受け継いできた木の文化、技術、魅力の発信拠点の整備に向け、東京木工場（江東区木場2丁目）の既存施設群全11棟を順に解体し、工場棟と来客棟の2棟に集約する全面建替えプロジェクトに着手しました。

東京木工場は、1884（明治17）年に清水組の木材加工場として開設され、関東大震災に際しては木材の集積所として帝都復興に貢献。1945（昭和20）年に戦火で焼失するも、直ちに復旧され戦後復興とともに工場設備を拡充してきました。名称は深川工作所、東京木工場と改称されますが、開設以来、職人によって磨かれ、活かされてきた精巧な木工技術を伝承し続けています。

一方、東京木工場の既存施設群はいずれも築50年以上が経過し、これまで耐震改修や部分改修を行いながら老朽化に対応してきました。しかし、2010年施行の木材利用促進法の効果により木造需要が増大する中、工場としての機能向上と作業・執務スペースの集約による業務効率化に向け、昨年4月に東京木工場の建替えを機関決定しました。

新築する施設のコンセプトは、木工事の技術と木の文化の伝承という東京木工場の重要な役割を踏まえ、「木の文化・技術・魅力の発信拠点」としています。3階建て、延床3,555m²の工場棟は、1階を多軸口ボットやNC加工機などの最新工作機械により新たな木造（木質）建築に対応する技術開発ゾーン、2階と3階を伝統の木工技術による加工を行い、文化・技術の継承を図る伝統技術ゾーンとします。いずれのゾーンにも見学エリアを設け、来場者が木の伝統技術と最新技術を間近で見学できるようにします。

来客棟は2階建て、延床1,291m²で、1階中央部を資料館とし、東京木工場が過去に製作した有名建築の内装の現寸展示や伝統工具、図面類を展示。1階北側に常設の木工室を設け、見学希望者や地域住民などを対象に木工教室を開催します。2階には事務室と会議室を配置します。

木工場に相応しく、工場棟・来客棟ともに木鋼ハイブリッド構造を採用するとともに、敷地内に木工の一環として設ける緑豊かな「森」が来場者を迎え入れます。

なお、既存敷地内での建て替えとなるため、既存施設群を順に解体しながら来客棟、工場棟、外構の順に着工します。解体工事を含むそれぞれ

の工期は順に22年3月～23年7月、23年8月～24年12月、24年12月～25年9月、施設全体のグランドオープンは2025年10月を予定しています。

東京木工場は、全面建替えを経て、増大が見込まれる木造需要に対応するバリューチェーンの核となるとともに、従来の倍の3,000人／年程度の見学者を受け入れ、文字通り、木の文化・技術・魅力の発信拠点に生まれ変わります。

《参 考》

新・東京木工場の概要

所在地：江東区木場2丁目15-3

地 積 : 6,609.78m2

	階 数	建築面積	延床面積	構造	工期（解体 工事含む）
工場 棟	3	1,560m ²	3,555m ²	木鋼 ハイ ブリ ッド 構造	23年8月～ 24年12月
来客 棟	2	861m ²	1,291m ²	同上	22年3月～ 23年7月
守衛 所	1	175m ²	13m ²	RC造	24年12月 ～25年9月

完成予想パース



パース左（3階建）が工場棟、右が来客棟



工場棟3階の伝統技術ゾーン



工場棟1階の技術開発ゾーン



来客棟2階の執務空間

既存施設群の概要

施設名称	築年	階数	延床面積	構造
第1工場	1955（昭和30）年	1	581.34m ²	S造
第2工場	1969（昭和47）年	2	762.34m ²	S造
第3工場	1966（昭和41）年	2	778.58m ²	S造
第4工場	1961（昭和36）年	2	1,030.04m ²	S造
第1倉庫	1964（昭和39）年	1	467.46m ²	S造
第2倉庫	1964（昭和39）年	1	189.00m ²	S造
事務所棟	1979（昭和45）年	3	930.44m ²	RC造
休憩所棟	1962（昭和37）年	2	399.08m ²	木造
油庫	1967（昭和42）年	1	10.10m ²	CB造
塗装工場	1963（昭和38）年	1	399.12m ²	S造
ゴミ置き場	不詳	1	7.95m ²	CB造

※CB造：コンクリートブロック造

※ニュースリリースに記載している情報は、発表日現在のものです。ご覧になった時点で内容が変更になっている可能性がございますので、あらかじめご了承ください。ご不明な場合は、お問い合わせください。